

第8回福島駅周辺まちづくり検討会 会議録

- 1 日 時 令和7年2月12日（水） 14:00～16:00
- 2 場 所 市役所 7階 議会会議室
- 3 出席者 委員8名
小林 敬一 委員長 西田 奈保子 副委員長
坪井 大雄 委員、 大和田 諒 委員、 中野 義久 委員
穴戸 路枝 委員、 鈴木 深雪 委員、 江川 純子 委員
- 4 欠席者 委員4名
追分 拓哉 委員、 紙谷 瑞恵 委員、 石川 文雄 委員、 瓶子 莉奈 委員
- 5 内 容
（1）副市長あいさつ
（2）説明
○ 第7回検討会の主な議論と意見について
（3）意見交換
○ 西口商業施設跡地の利活用に関する検討報告（案）について
（4）報告
○ 東口再開発事業の検討状況について
（5）その他
- 6 概 要 事務局説明後、質疑応答、意見交換

7 会議詳細

（1）副市長あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝。

この検討会でのイトーヨーカドー跡地に関する議論も、本日で4回目。これまで、西口エリアの現状やまちづくりの視点から跡地活用の方向性などについてのデータ、他都市との比較資料などを提供させていただいた。また、委員長からもモデルスタディの資料をご提供いただき議論してきた。前回は、骨子案について議論いただいたが、本日は検討報告の取りまとめに向けた仕上げの議論をお願いしたい。

西口エリアの日常の買い物については、この検討会における指摘なども踏まえ、急ぎ、循環バスの検討・調整を進めてきた。実証実験として、今月中に運行開始の運びとなっている。運転手不足への対応、或いは道路施設の改善が必要で、調整も難しいところもあり理想的な形にはならないかもしれないが、ご利用いただきながら文字どおり走りながらさらに検討を進めていきたい。沿線或いは周辺の居住者の方には、ぜひご利用いただきたい。

また、先月の末、市長会見において報告した東口再開発の検討状況について、本日、委員の皆様にも説明させていただきたい。すでに報道などでご存じかもしれないが、市としては、昨年6月の見直し方針の延長上にあるA案と、駅前の顔・シンボルとなり、よりフレキシブルに使える設計会社の意欲的な案をコンパクトにしたC案の2つを軸に、市民の皆さんや議会の反応などを伺いながら検討を進めていきたい。本検討会においても、委員の皆様から感想・コメントをいただきたい。

改めての説明になるが、この再開発は本市の都市力が低下し、駅周辺での民間投資が低調の中で、街なかに位置する市施設の戦略的な再編と民間投資を引き出す引き金となることを狙いとしている。

市施設の戦略的再編については、来月、市役所の西側、複合棟に市民センターが供用開始を迎えることになっている。公会堂・市民会館・中央学習センターが、耐震、或いは老朽化の問題を抱える中、これらの再整備にあたり役割分担するということで、日常的な市民活動の拠点となる市民センターと、市内・県内外からの集客拠点となり市民のハレの舞台となる駅前の施設に再編する計画の一端が実現する。

再開発については、工事費の大幅なかつ急激な高騰により、事業収支、或いは完成後のランニング収支が合わなくなり見直しを余儀なくされた。供用開始が当初計画から遅れるが、今の街なかでは、人が集まる拠点を早く作ることが何よりも重要だと考えている。人が集まらないから投資が起きない、投資がないから人が集まらないという悪循環から一刻も早く抜け出す必要がある。

あわせて、人が集まるだけではなくて、人が住む・人が働き学ぶ・人が流れるという、街なか再生の他の要素についても、来年度の予算案などにおいて施策を強化すべく準備を進めている。街なか再生、駅周辺の再生にしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

こうした中で、2月16日、駅の東口に新しいホテルがオープンする。通常よりワンランク上のサービスを提供するというので、土湯温泉のお湯を使った大浴場やライブキッチンを備える約300室のホテルである。こうした民間投資により、駅周辺の新陳代謝が進み、街なかの再生につながっていくものと考えている。本市としてもより一層、民間投資の促進に取り組みたいと考えている。本日はよろしく願います。

(2) 説明

○第7回検討会の主な議論と意見について

(3) 意見交換

○西口商業施設跡地の利活用に関する検討報告（案）について

事務局で資料2、資料5を説明後、意見交換

委員長

事務局より西口商業施設跡地の利活用に関する検討報告（案）について説明があった。こちらは、皆様のこれまでの意見を踏まえて作成したもの。前回の骨子案でも概ね理解いただいていると思うが、改めて意見や感想があれば願います。

委 員

今までの議論、或いはワークショップ等の意見が組み込まれており、しっかりとまとめていただいた

と思う。細かいところで1点だけ感じたところは、75～77行のところ。集客機能の意見が集約されているが、商業施設・ショッピングセンター等と、大学サテライト・専門学校といった高等教育施設は、同じように人を呼び込める集客機能を持った主な施設ではあるが、若干色合いが違うような気がする。本当に単純だが大学サテライトの前に何か一言入れていただきたい。

委員長

例えば「或いは」を入れるなど、検討いただけたらと思う。

委員

一番大事な部分だと思う東口と西口の役割分担の内容が記載されている。まとまっていて分かりやすい内容だと思う。コラッセには物産館があり、福島駅東口にはイベントスペースなどが今後整備される予定なので、西口ならではの役割を持たせていくということは必要になっていくと思う。

駅西口循環バスは実証運行すると思うが、食品スーパーやドラッグストアといったところは、本当にスピード感を持って対応していくことが何より大事になっていくと思う。特に高齢者や子育て世代にとっては、それが一番大事になってくると思っている。

私も長く西口に住んでいて、西口は住民の利便性を考えるべきである。検討報告（案）は、その内容を網羅しているので非常に良いと思う。

委員長

委員に一つだけ相談がある。言葉遣いとして74行目に「外貨を稼ぐことが出来る」とあり、これは委員からいただいた意見。私も全くその通りだと思うが、こういう文脈の中で書くと本当に外貨が欲しいのか、ドルやユーロが欲しいのかと思われてしまうので、ここを例えば「域外収入となるように」という内容にさせていただきたい。

委員

「外貨」というと外国のお金という感じがするので、置き換えて良いと思う。意見としては、これから福島は人口減少とともに経済面も厳しくなる。外から人を呼び込むということが盛り込めたのは非常に良かったと思う。

また、図書館は今後形を変えていかなくてはいけない施設と思っている中で、「図書館」という言葉がどうなのかなと思った。おそらく、今までのような図書館の概念を変える必要があると私は思っている。

委員長

今の話は96～98行にかけての意見。「図書館については、文化教育施設として整備するのではなく、文化交流施設としてワイワイガヤガヤできる」という表現で意識しているが、もう少し工夫できるか事務局で検討いただきたい。

委員

今まで検討会で意見してきたが、ここに整理されているもので良いと思う。ただ、これからバスも巡

回するということで、大変良い兆しが見えてきたが、ピボットの撤退など全然先が見えない。

交流機能ということで、趣味や子育て、図書館ということが書いてある。一層イメージを膨らませて、西口の再開発をしていただきたいと願っている。

委 員

今まで出てきた意見がとてもまとまっていると思う。1点気になったのが、先ほど委員からあったように、東口との役割分担を明確にと書いてあるが、いただいた資料に東口再開発の1階に物産館が入る予定とあった。西口にも物産館という名称が出てきて、どうかなと思った。

委員長

これは、後の検討として事務局に願う。

委 員

報告（案）は、本当によくまとめていただいたと思う。感謝する。先ほど委員からあった、西口循環バスが実証運行されることを新聞で拝見したときには、私も嬉しく思った。そのルートを見ると、ヨークタウンを中心という感じがした。買い物をするにはおそらくあそこが一番便利なので、それを考えていただいたのかもしれないが、ルートを選定する際、地区住民から聞き取りしたのか、後程お聞きしたい。

委 員

すでに議論されていることかもしれないが、50行目のところで「街なかで再整備が必要となっている公共施設の整備など、行政は一定の関与を行うべきである」という表現がある。そのあとは「4.跡地利用に関する提案」のところで（1）から（5）までの機能について並列のような形で書いてあるが、スピード感を持って可能な限り行政としても対応していくという姿勢を示す中で、公共の関与の優先順位やできることなどをもう少し示していくことはできないかと感じた。おそらく様々な立場からの意見がある中で、それをすべて取り込んでまとめているからこそ、そういった形になると思うが、公共の関与がある程度前提にしながら民間事業者に提案していくという姿勢を明確に示すことはできないものか。

また、東口との役割分担については、先ほどの委員と同様な意見。東口再開発の民間エリアのプランが発表された中で、今回の西口の書きぶりでは少し役割分担の考え方が弱いのではないかと感じる。

委員長

今のほどの委員の意見について、私なりの考え方を説明する。この跡地は、民間が所有している中で、まだそちら側が何をするのか、全く不透明な中で議論してきた。委員からあったように、公共がどこまで関与することができるのか見えない中で、もし、こういうことがあればこういうことが考えられる、或いはこういう状況ならこういう補助制度が使えるなど、そのような考え方でスタディしてきた。

土地利用に関しても具体的なスタディはしたが、事業者が何を望んでいるのかはまだ分からない。これから、この検討報告を以てキャッチボールが始まるのだと思う。

つまり我々は、まちづくりの観点でこういうことが望ましいという意見をまとめることができた。これを以て、今度は事業者側に考えていただき、また投げ返してもらうやりとりの中で、公共が関わるこ

とになるか、ならないかも含めて明確にできない段階での話だと理解いただけたらありがたい。そのため、このような書き方になっていると思う。

そういう制約が多い中で、実際にスタディした立場から言うと、動線や景観など敷地の物的環境の条件について、配慮いただきたいと考えていたが、それも次の段階のことと考え、今の段階ではここまでに留めている。

専ら機能構成に関して、事業を成り立たせるためにも、また、この駅西口の場所に相応しい開発となるようにするためにも、我々が考えたところを示したという形でまとめるのが望ましいのではないかと考えたところである。もし、皆様がこれでよろしいということであれば、修文に関しては私の方で預らせていただき、事務局と相談して詰めたいと思う。

副市長

委員長にまとめていただいたことを多少補足するような格好になって申し訳ないが、「3. 跡地利用の考え方」にも書かせていただいた通り、民間事業者主体の開発が一番望ましい。その全体像をしっかりと示して欲しいと書かせていただいていることを共通認識にしていきたい。

民間開発が基本の中で、まちづくりへの貢献が小さいような開発のときに、どのようなアクションをするのか、或いは民間事業者から行政と一緒に何かやりたいと要請があったときに、行政が何をするのかという観点で書かせていただいている。事務局としては、その辺を押さえた上での跡地利用に関する提案と見ていただきたい。

それから、前回の報道でも「イトーヨーカドー跡地に産直施設ができる」と報道されていた。これはあくまでも例示であり、これを作りたいということではない。集客機能は、委員の皆様から出た意見から例示している。この中で、先ほど委員から「物産館みたいなものは要らないのではないかと」あったが、この検討会の中で例示から落とすということであれば、削除しても構わないと思う。あくまでも例示で、まちづくりの観点から大事なことは、集客、交流、買物、居住、駐車場といった機能が複合的に用意されることと考えている。

また、従来型の図書館ではないという意見があった。そのような趣旨を明確にするため、例えばかぎ括弧つきの図書館にするなど、表現の工夫は委員長と相談させていただければと思う。

事務局

委員から、バスルートについて住民から聞き取りしたのか、と質問があった。西口のあらゆる皆様と意見交換させていただき、特にスーパー等で、どういう客層が増えているかなど、いろいろな情報を得ながら進めてきた。様々検討はしたが、旧高湯街道から右折ができないため左回りとなっている。本当は右回りが望ましいと思い、大分交渉したものの、なかなか交通規制までは変えられず、まずはこの左回りで運行することで、現在手続中である。開始日をお伝えできず申し訳ない。なるべく早く、2月下旬には運行したいと考えているのでよろしくお願いします。

委員長

他に意見等がないようであれば、以上として、本日欠席している委員の意見も含めて委員長預かりとさせていただきます。また、この検討報告は、日程を調整し、私から市長に提出する。

(委員 了承)

(4) 報告

○東口再開発事業の検討状況について

事務局で資料4を説明および動画投影後、質疑応答

※市HP「東口再開発と東西一体のまちづくりに関する特設ページ」掲載

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/shigaici-saikaihatsu/tokusetsu2.html>

委員長

ただいまの説明について、質問・意見等をいただきたい。

委 員

A案とC案を比べた場合、C案の方が大屋根広場の上もフルに使えるので、A案より様々な使い方ができるという考え方で良いか。それから、この雁行型という形について、資料の図面を見ると斜めになっている感じが強く心配したが、映像ではほとんど普通のホールと変わらないと感じた。実際のイメージは、映像の方が近いということで良いか。また、「雁行型」という言葉について、今後、説明する場合にもう少し分かりやすい言葉が良いと思った。以上3点、よろしくお願いします。

事務局

A案は一般的にある整形の矩形で、B・C案はよりフレキシブルに使えるものとして、雁行型を設計会社から提案を受けた。先ほど説明したように、主催者側は荷捌きスペースを大事にするといった設計アドバイザーからの助言により、ホールは1,500㎡をキープしながら、そちらを増やすとホワイエが狭くなるため、この雁行型の提案を受けた。ただ、違和感は若干あるので、整形が良いか、雁行型が良いか、市としても悩んでいるのが実情。雁行型は、一体的な使い方もあるが、個別の使い方も多く、様々な使い方ができるので、そういう意味では魅力的と捉えている。「雁行型」という言葉は、言い慣れないところはあるが、今のところ、雁行型と呼んでいる。

副市長

今ほどの委員からの話は、大屋根の上の部分も含めてフレキシブルかという質問だったと思う。どちらかというところ、C案は空間が分節化というか、いくつか重なっているような空間構成になっていて、A案はドーンと広がっている空間構成である。C案は、ワークショップやタウンミーティングなどで言われた少人数や個人など小さいグループで使うには非常に使いやすくなっており、小規模なイベントなどにも使いやすいと思う。一方で大きなイベントを屋上広場でやろうとするときには、少し使い難いところがあるかもしれない。

それから「雁行」は、「蛇腹」など様々な言い方をしていたが、なかなか良い言葉がなかった。むしろ、何か良い呼び方があったら、ご提案いただけるとありがたい。実際のイメージについて、図面上は非常に斜めになっているように見えるが、設計会社からの説明では、幅が約30mで角度的には15度程度。3つのホールで分割して使うときは、全部矩形整形なのでそれほど気にならないと思う。一体的に使う場合も動画のイメージを見ていただくとあまり気にならないという方が多いとは思いますが、感じ方は

人それぞれなので、ご自身で判断いただければと思う。

委員長

時間の都合もあるので、事務局の意見を伺うのではなく、まずは、皆様の感想を伺いたいと思う。

委 員

A 案・C 案の中では、金額的にも C 案が、バランスが取れていると思う。質問になって申し訳ないが、資料や動画では、春か夏のイメージだと思うが、やはり福島の冬だと雪も結構降ると思う。C 案で、冬にどのようなイメージになるのか気になっており、場合によっては、A 案の方が良くなるかもしれないと思った。

副市長

冬至の日の日照なども調べてもらい、屋上広場に関して、一部どうしても日照が確保できないところがあるが、概ね 4 時間程度の日照は確保できる。そういう意味では、A 案と C 案でどうかというよりも、むしろ、この敷地の特徴として、駅前通り側が北側なので、そちらに開かれた施設にしようとする、このような構成になってしまうと思う。雪が残り続けることは、管理の面でクリアする話もあるが、冬季の利用についても、それほど問題ないと思う。

また、風の問題も指摘をしている。設計会社からは福島の卓越風が西側なので、権利者棟があることで多少緩和される、また広場がその北側に置いてあることによっても、風は充分防げるのではないかという説明だった。

委員長

委員の皆様からは感想を伺いたいということと、逆に委員から出た意見に対しては、直接答えなくても結構なので、そういう観点で評価したらどうか、或いは問い合わせて確認したらどうかという提案と聞いてもらえれば結構。

委 員

資材高騰等で見直しされたが、前より大分良くなっているというのが感想。A 案・C 案、珍しい建物ということを見ると C 案の方が良い。階段はたくさんあるが、エスカレーターは 1 階部分だけなのか。質問になって申し訳ない。

事務局

B・C 案は、屋外から上り・下りのエスカレーターと、少し分かり難いが、屋内にもエスカレーターは上下で検討している。

委員長

確認は重要です。他にいかがか。

委 員

少し長くなるのでお答えいただかなくて大丈夫だが、8月6日の検討会で金額を抑える分割案だったのに、なぜ金額が増えてしまったのか、市民に対してもう少し丁寧な説明が必要ではないかなと思った。また、2,000人規模の全国大会や1,000人規模のバンケットを開催するために、これだけの規模が必要ですよというのは分かるが、「年間このくらい開催されるので、これだけ必要」という説明も市民に対しては必要ではないかなと思う。

この建物に対しては、A案もB案もC案も、まちなかりビングはもっと駅前通りから見えた方が良くと思った。中にどんな人がいるか見えた方が中に入りやすいと思う。また、大階段にこだわりがあるのか分からないが、この階段はなくても良い気がする。将来的に、駅と直結するルートなどをこの段階で考えているのか分からないが、そのようなものがあるとより利便性が高まると思う。

委 員

素晴らしい青写真ができて、新聞などを見た市民の皆さんも素晴らしいと思っていると思う。ただ、予算が最低でも20億円、或いはそれ以上多くかかるかもしれないとのことだが、その予算はどこから出てくるのか説明があった方が良かったと思う。福島市は、ふるさと納税は頑張っており、それが使えるか分からないが、そういう出どころをはっきりすれば良いと思う。

それからもう1つ、先日、文化団体の集まりがあり、このホールは福島市公会堂の代わりになるのかと聞かれた。サイズ感としては同じくらいの大きさだと思うが、もしそのように使うとすれば、先ほどバックヤードが非常に充実しているという話を聞いたが、楽屋の設備なども少し説明があったら嬉しかった。

文化センターの楽屋は非常に使い難くて、そこに行くまでの通路は狭いなど、旧態依然として古い形で、コンサートを開催する方から楽屋が悪いということも聞いたことがあるので、楽しく使っていただく、また呼んでいただくために、立派な楽屋を設置していただきたいと思った。

委員長

事務局には最後にまとめて、回答できる範囲で説明いただきたい。

委 員

予算の点で、第1回目から懸念しているが、この事業費の内訳について少し説明が足りないのではないかなと思うし、このお金が市民に降りかかってくるようではいけないので、その辺の説明をお願いしたい。

また、私が学習センターの建設委員だったとき、説明では遮音性がある仕切りだったはずだが、実際にでき上がったものは隣の声が聞こえる。資料に、マイクロフォンの音やピアノやステレオの大きな音が殆ど聴こえないレベルを確保と小さく括弧書きになっているが、これは大切なことで、そういうところも重視される設計であって欲しいと思う。

また、北側から階段を上っていくという設計になっているが、この階段というのは高齢者にとっては大変なことで、エスカレーターも付くのであれば安心したが、なかなか大きな課題ではないかなと思う。

委 員

私が説明していただきたい、或いは考えていただきたいと思ったのは、将来的なメンテナンスや維持

管理のしやすさなど、コストを抑えるという観点。A 案・C 案について、どのような違いがあるのか、或いはどのような工夫ができるのか、ということを考えておく必要があると思う。上から見た図で言うと、階段の構造が、C 案の方が A 案よりも複雑な構造になっている。メンテナンスやイベントなどで人がたくさん来た時の安全性も含めて、維持管理の面からの検討もお願いしたい。

委員長

意欲的な新しい案を出していただきありがたい。また、B 案の断面形を見ても、特徴的な見る・見られる関係の断面形になっており、魅力的な空間を作るのだらうと思う。ただし、B 案でも新しいアイデアとして発想して、それを予算の中に収めるために C 案を考えたということで、C 案をブラッシュアップしているが、同程度の工夫は A 案に対しても、もう少しできるのではないかなと思う。同列に並べて検討しなければ、基本型として、A 案が良いか、C 案が良いか、要はフォーマルな矩形が良いのか、少し蛇腹型にしたほうが良いのか、今の段階ではよく分からない。

また、まだ構造が検討されておらず、プランニングだけで検討されている。特に B 案・C 案に関しては、構造がどういうものになって、それがコストにどうはね返ってくるのかという説明が必要であると思うし、先ほど意見のあったバリアフリーの検討もコストに反映してくるので、それらを詰めた上で比較しないとあまり意味がないと思う。今ほど委員からあったように、今後の維持管理、メンテナンスの観点も重要だと思う。

それから企画側の問題として、コンスタントに利用が見込まれるイベントや偶然起きるようなイベント、或いは期待しておられる大規模学会などが、どの程度需要があってこれだけの収益につながるという具体的なイメージがなければ、楽屋の扱いも含めこれだけのゾーンが必要かどうかということがよく分からない。他にも、冬のイメージ、風のイメージなどの指摘があったように、少し検討が必要な気がする。

最後に、ホールは席数が書かれているが、蛇腹型であれば見えない部分には椅子は置けないので、少し両サイドは減らした上での比較になるのではないかなと思う。事務局と事業者で検討いただくということで良いと思うが、今の段階で回答できることがあれば願います。

事務局

20 億円程度増えるというところの説明をもう少し丁寧にした方が良いのではないかなという意見があった。先ほどもご説明したように、まずは機能をしっかり使えないと、このホールを作っても意味がない。1,000 人の学会、2,000 人の全国大会を主催する団体から選んでもらうには、会議室やバックスペースを見直し方針時よりも増やす必要があると設計アドバイザーから助言を受けた。それを検討すると、1,500 m²程度の床面積を増やす必要があり、20 億円程度の増加となった。

事務局

学会の関係では、昨年度、市内で開催された学会の件数は大小様々で 24 件。今年度に関しては現時点で 32 件の開催を予定している一方、市内に施設が無く、大規模な会議の開催を断念したものが 3 件あり、延べ人数でいうと 1 万人近い機会を逸している状況。今後の開催件数は、我々がどの程度誘致できるかによるため、正確にお示しできる段階にはない。

副市長

まちなかりビングを地上と同じ高さにするという意見について、荷さばきスペースの充実に伴い、倉庫をまちなかりビングの下に配置したため、リビングが上になった。大階段のためではなく、機能的なところでそのようになった。空間的には、高さが変わる、断面が変わることによって生まれる空間の関係性もあるので、街を歩く人から丸見えになるのがいいかどうかというのは一概には言えない。ご指摘の内容は、既に検討していることをお伝えする。

他にも駅との直結の話があった。これは JR 東日本と話をしており、将来的に対応していきたい。

メンテナンスについては、見直し方針の時にも、修繕積立も入れて年間 6～7 億程度と説明している。今後、設計を進めて精度が上がってくれば、もう少し見えてくると思う。今の段階で優劣は言えないが、今後しっかりと詰めていきたい。

構造的な検討に関しては、A と C はどちらも鉄骨で考えているが、雁行型になると直角に取りつかない梁や柱などがあるので、その点を踏まえて C 案が少し高くなる可能性がある。20～30 億円の増額と示しているが、積算しているわけではなく、設計・施工会社から話を聞き、一定率掛けてこの程度上がるのではないかと提示している。

それからバリアフリー、或いは集客の安全性といったものは、当然しっかり考えていく。

財源に関してふるさと納税の話もあったが、財源の確保は市全体としてもしっかりやっていく。補助金の活用も最大限どこまでできるのかも考えながらやっていきたい。

見切り席の話もあったが、角度的には 15 度程度なので、基本的には見切り席はないと思う。実際、通路幅を確保できれば、正面が見えないということはないのではないかと考えている。

また、楽屋も大事で、やはり主催者に選ばれないといけない。それは 1,000 人規模の学会なども同じだが、1,000 人規模でできるかどうか、800 人、900 人だけとなると営業活動に関わってくるので、そういったものを誘致する上でも、楽屋も含めてバックヤードに関してはしっかり検討している。今回は、そこまでの説明をしていないが、基本設計の中でより詳細に詰めていきたい。

委 員

民間エリアの建物は、パースより高い気がする。日照について、12 時を過ぎると冬はほとんど日陰になるという印象だが大丈夫か。

副市長

全面ではないが、冬至で 4 時間程度確保できると説明を受けている。

委 員

個人的な意見かもしれないが、斜めのものを常時見ることに對して、私は非常に不快感を持つ人間である。斜めに作られているところに疑問を持っている。

副市長

その点に関して、全面利用したときの正面の壁の向きについては、設計会社、設計アドバイザーから、真正面を向く形にしたほうが良いという話があった。正面の壁の向きだけを変えろという考え方もあるし、資料の 32 ページ右側のように、上からスクリーンを吊るし正面になるように使うことによって、

三角形のバックスペースができ、多少控え的に使えるのではないかと提案を受けている。また、サイドの斜めはほぼ気にならないというのが、設計アドバイザーからの意見であった。

委員長

私からも少し意見させていただく。大変意欲的な提案で、ホワイエにも使えるバツファの部分が生まれるのは、大きな効果であると期待している。その点 A 案は少し窮屈になるので、これを雁行型にしたのは一つ利点だと思う。それに伴って、小規模な空間が 3 階にもでき、多様な使い方ができるようになると期待される。また、屋上が連続的に展開することで、そこにも多様性が生まれたところも優れた点であると思う。

ただ、不安点をいうと 2 点ある。駅の方からずっと登れる階段が肝だなと思うが、このような屋外階段を人々が登るかというところをもう少し考えた方が良いと思う。本来なら屋外エスカレーターにしたところであるが、屋外にしなくても屋内のエスカレーターが代替するような形で沿わせてあるなど、少し動線上の工夫が必要な気がする。それと同時に、その動線を考えるのであれば、全体の回遊動線も考えて提案・説明いただく方が良いと思う。

もう 1 つは、委員が指摘した屋上の使い方、或いはイメージについて、冬や日陰の時などの条件にも対応するようなイメージを作った方が良いと思う。細かい話かもしれないが、全体に及ぶ重要な問題であると思う。

事務局

今回の市長への検討報告の提出については改めて日程調整をさせていただく。